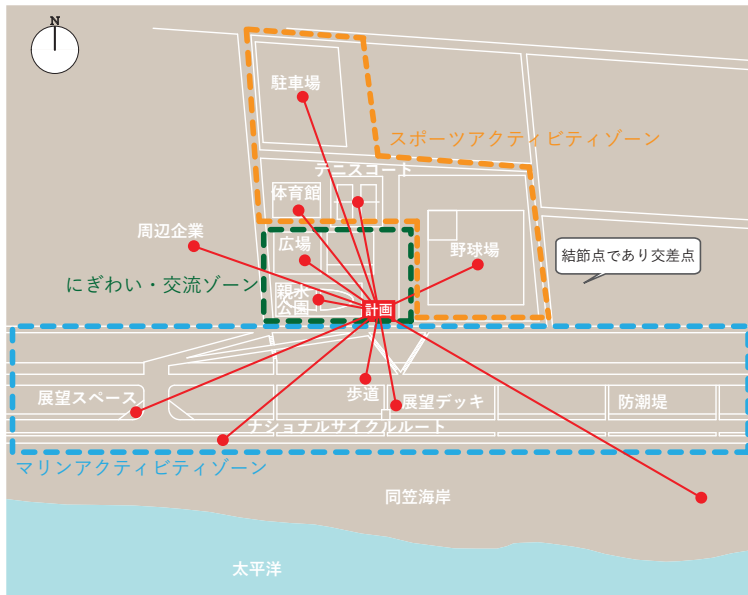




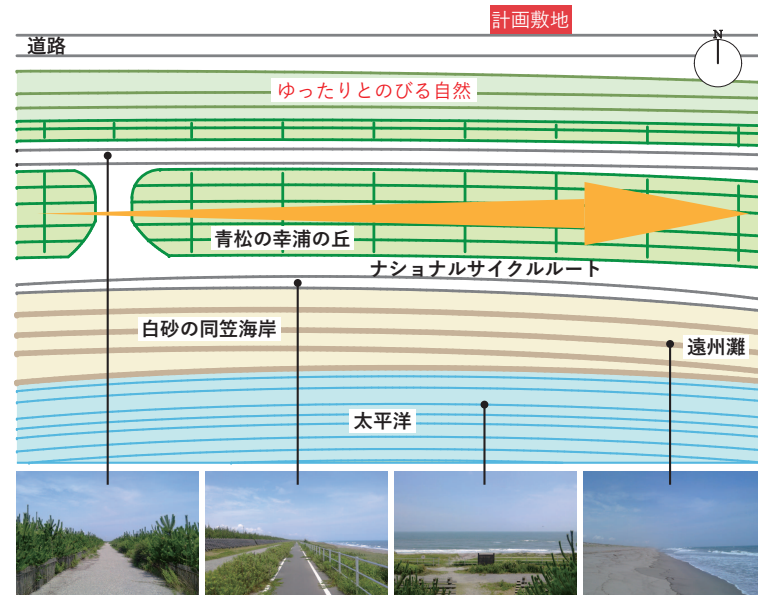
うみてらす DORI

にぎわい創出のシンボルとなる施設

袋井市の同笠（どうり）海岸周辺の「海のにぎわい創出プロジェクト」のひとつとして休憩交流とトイレ機能を持ったシンボルとなる施設がプロポーザルの要望でした。サーファー、サイクリスト、釣り人が利用する「マリナクティビティゾーン」。野球場、テニスコート、浅羽体育センターがある「スポーツアクティビティゾーン」。親水公園

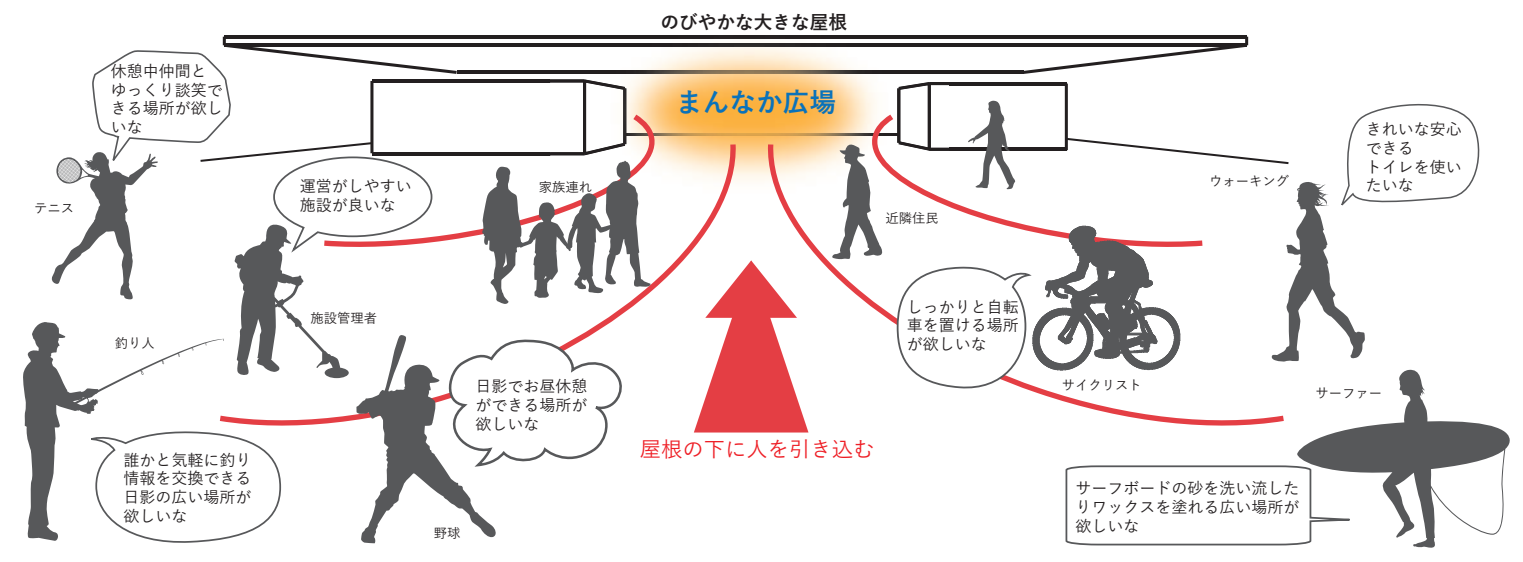


や芝生広場がある「にぎわい・交流ゾーン」。計画地はそれぞれのゾーンの中央にあり、多種多様な人々が利用する休憩交流の場としての結節点であり交差点となることを目的としています。遠州灘の海岸線、白砂の浜辺、青松の幸浦の丘など東西にゆったりとのびる雄大な自然が広がっていることもこの計画敷地の大きな特徴となっています。



のびやかな大きな屋根

同笠海岸の雄大な自然に呼応するのびやかで大きな屋根の建築は、訪れる人々に目印の役目を果たし、たくさんの人々が屋根下に集います。屋根下中央の空間は、様々な使い方ができる広場として、多種多様な人々を引き込み同笠地域のにぎわいを創出します。周囲の自然環境と調和し、時間をかけて親まれるシンボルと成ります。



多種多様な利用者に向き合う

サーファー、釣り人、サイクリスト、浅羽体育センター利用のスポーツをする人、ウォーキング等の地元の人、企業の会社員、施設管理者といった多種多様な利用者に対して平等に向き合い、それぞれの利用者の特徴を理解して使いやすい機能と動線となる配置や形態とし、建物に囲う長いベンチは多くの人が休憩できます。



シンボルとなる大きな屋根



イベント時のまんなか広場

人々を引き込む自由自在な「まんなか広場」

2つの四角いブロックの上に大きな屋根を架けたシンプルなデザインとしています。西側ブロックは、男性と女性のトイレ。東側ブロックは、自販機スペース、みんなのトイレ、シャワースペース。中央の屋根下空間は、半屋外の休憩・交流スペースとしてのまんなか広場。分かりやすい門型の構成は、自然と人々を引き込み休憩や交流の場となります。

まんなか広場は、間口6間(10.92m)奥行4間(7.28m)高さ3.4mの約80㎡の柱無空間です。休憩交流としてのスペースだけではなく、どのようなシーンにおいてもフレキシブルに対応できる空間は多面的な活用(イベントや展示空間など)を可能とします。また、トイレなどの出入口は、まんなか広場側に設けないことで機能を明確に分離しています。

結節点であり交差点

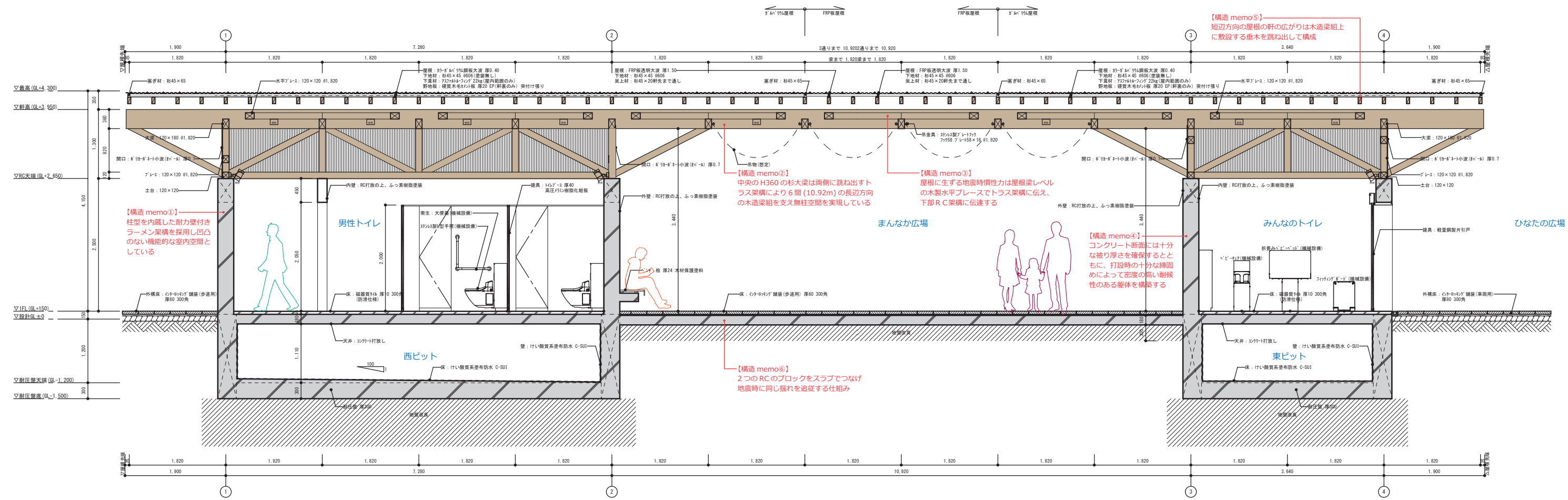
東西南北どの方位からも利用者を迎え入れることができる配置としています。まんなか広場が各エリアからの交差点となり、それぞれの利用者の流動的な動線を形成します。北のスポーツアクティビティゾーンと南のマリンアクティビティゾーン両方のエリアの利用者の結節点として自然な人の流れをつくり、同笠エリアに訪れる多様な利用者がまんなか広場を中心に繋がっていきます。



自転車をとめるサイクルラックを配置



青松の幸浦の丘と水平の屋根が調和する



居心地の良い寸法形態

全世代が憩い交流できる場所を目指します。家族、カップル、友人、高齢者、誰でも居心地の良いと感じる場所を創出します。特にスケール感を大切にします。近すぎず、遠すぎず適度な距離感を調整できる空間です。建物は低層平屋建てとし圧迫感のない親しみやすい高さとしています。基本モジュールは尺貫法とし、なじみ深い日常のスケールを用い居心地を構築します。トイレやベンチを構成する寸法は、人体寸法を元に多様な需要に対応できる余裕のある空間としています。

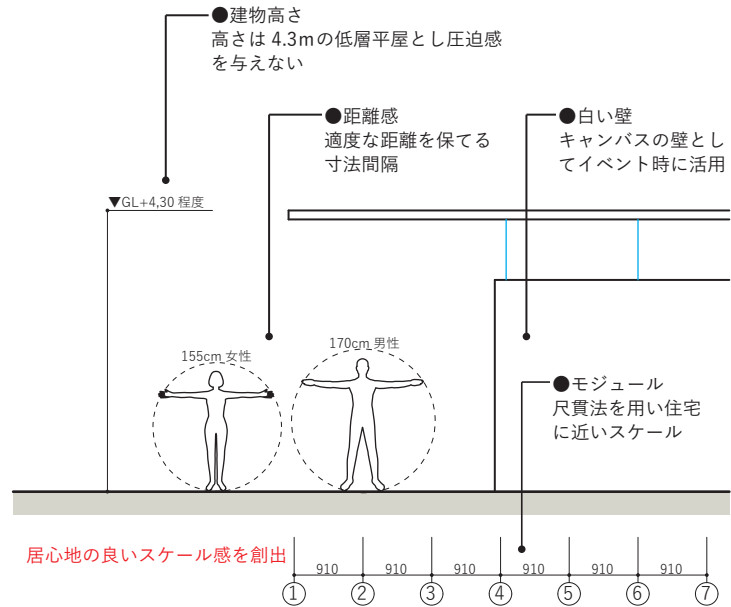
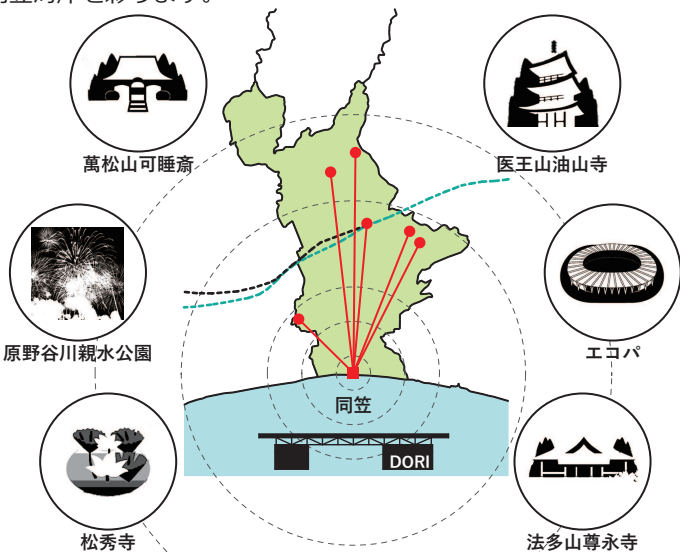
キャンパスの白い壁と吊物装置

視認性の良い正面の壁は、イベントごとに特色を活かしたデザインの壁にマッピングを施しフォトスポットとして SNS の発信を促しイベントの認知度を上げる効果を発揮します。

木架構の大梁には金物フックが付いており、イベント時の吊物装置としての役目も担います。用途に合わせて旗や幕、バトンなど色々な物を吊るすことができ、華やかさを演出します。

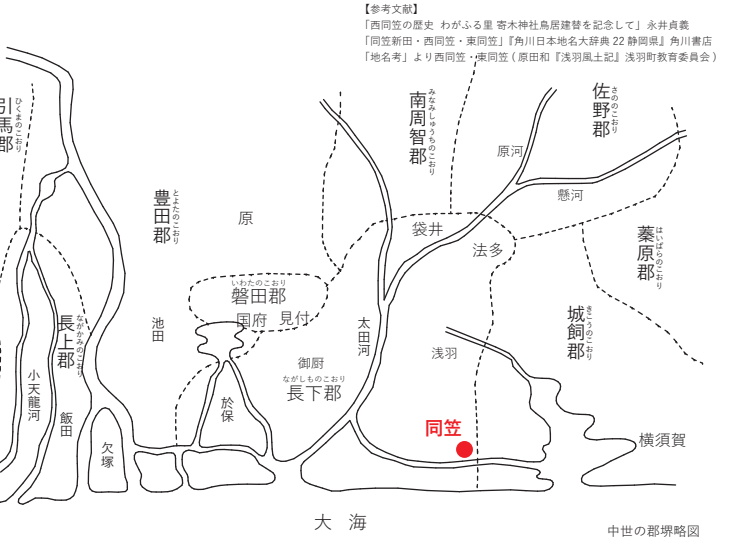
袋井の各名所と同笠を繋ぐ

遠州三山で毎年夏の風物詩として行われている風鈴まつりが有名です。袋井市の各名所と同笠海岸が繋がって袋井市全体を盛り上げる架け橋となる施設を目指します。地元民以外にも他県から同笠海岸を訪れる人も多いため全国に情報発信の拠点として袋井市が誇る代表的な名所のひとつに数えられる施設となり様々なイベントシーンに特色を出し同笠海岸を彩ります。



同笠の歴史から紐解く

現在の同笠にあたる地域は昔「通熊郷(とおりとぐまごう)」でした。後に西同笠郷→西同笠村と変化し明治の頃に周辺の村を統合し「幸浦村」が生まれました。その後、幸浦村はなくなり現在の「同笠(西同笠+東同笠)」となります。同笠の名前の由来は諸説ありますが、「通」の転訛であるとされています。この施設が、多くの人が通り立ち寄ることでさらなる同笠のにぎわいとなることを願います。



建築主 袋井市スポーツ政策課	工程 設計：2023/09 ~ 2024/06 工事：2024/07 ~ 2025/03
建築場所 袋井市東同笠 1611-1	敷地条件 敷地面積：1,120.50 m ² 地域地区：都市計画区域内 用途地域：指定なし 防火地域：法 22 条区域 その他：下水道処理区域外
設計 意匠：企業組合 針谷建築事務所 構造：(有)イーエス工房 電気：(株)環設備設計事務所 機械：(株)こさづま設備設計室	仕上げ 屋根：カラーガルバリウム鋼板 FRP 透明板 軒裏：硬質木毛セメント板 欄間：ポリカーボネート 外壁：RC 上、ふっ素樹脂塗装 建具：軽量鋼製建具 外床：インターロッキング 内床：磁器質タイル 巾木：アルミ巾木 内壁：RC 上、ふっ素樹脂塗装
施工 建築：塚本建設(株) 電気：(株)立正電気 機械：袋井設備(株)	その他 合併浄化槽 車椅子使用者駐車場 1 台
構造・規模 構造：トイレ棟 RC 造平屋建 備品倉庫 木造平屋建 建築面積：トイレ棟 259.56 m ² 備品倉庫 26.50 m ² 建蔽率 25.53% 延床面積：トイレ棟 283.48 m ² 備品倉庫 26.50 m ² 容積率 27.67%	

欄間から照明の光がもれ建物自体が外灯の役割を果たす

落ち着いた色合いのタイルのシャワースペース

透明波板からやわらかい日の光を落とす

車椅子利用者も安心して利用できる余裕のあるみんなのトイレ

1 間半 (2.73m) 跳ね出した軒下空間